

## 第24回 日本視機能看護学会会員情報交換会



【テーマ】「現場で抱えるロービジョン者の問題～看護師ができるケアとは～」

【日時】2025年1月18日（土）14:00～15:30

【講師】高橋 広先生（北九州市福祉事業団 北九州市立総合療育センター眼科）

【座長】大音清香（日本視機能看護学会名誉理事長）

【参加人数】10施設（16名日本視機能看護学会役員含む）

【参加申し込み方法】

### 【報告】

ロービジョンケアについてのセミナー交流会は、高橋広先生の講義をもっとお聞きしたいというご意見から具体的な事例をもってご相談させていただきたいという内容まで幅広く、90分の時間では足りないというご意見がありました。

今回は、講義内容として、NHKのEテレ「見えないってどういうこと？」をご紹介して頂き、参加者で視聴し、ロービジョンケアに必要な患者さんの見えないという事はどういうことかを学ぶ機会ともなりました。更には、参加の皆様よりご要望があったMilookのアプリの使用方法についてもご教授いただきました。視力、視野障害のある患者さんの見え方や見えにくさをイメージでき患者さんと共有できるツールとして分かりやすく、看護師として患者さんとお話をしていく際にも参考になるツールであると感じました。

各施設では、視能訓練士が関わる場面が多く、看護師としてそのように関わる事ができるかについて、悩んでいるというご意見やご相談が多くみられました。関わるきっかけとして、病棟看護師は入院中の日常生活動作において、トイレまでの歩行や食事など、ちょっとした患者さんの行動などから一言声をかけていく事で繋がっていくので、きっかけとしての問診表についても各施設事に作成していく事も方法としては有効であるご教授いただきました。

アドバイザーの医療ソーシャルワーカーの永沼先生からは、各地域の社会福祉制度などに関連したリストなどを準備していくとよいのではというご教授も頂きました。看護師の役割としては、患者さんの悩みに対して、具体的に院内外問わず、誰にどこに繋いでいく事が良いかという事を整理しておくことが必要で、第23回の地域連携での看護師としての役割という点でもアドバイスを頂いていた内容にも繋がりが、前回も参加して下さった方については有用であったと思います。

参加された皆様は、現在の関わりの中で個別に深くかかわりながらケアを行っている方もおられましたが、ロービジョン患者さんの支援においては、高橋先生より、事務方も含め医療チームで関わっていく事が大切であるご教授頂きました。実際には、施設の特徴として、特に眼科病院では周術期患者の術後ケアが中心となっているため、施設での取り組みについてはそれぞれ関わる事ができる時間も限られてくることもあり、自施設の環境の中で看護師に求められている事も含め、チーム医療としてどのように関わっていく事ができるかを各職種と一緒に考えていく事ができればと感じました。

ロービジョンケアにおける看護師の関わりについてはうまくいかないケースもあり、まだまだ今後も課題も多く、悩みも尽きない中ですので、セミナー交流会では例年教育企画として継続的に行っていきたいと考えております。